

ドイツ文化論Ⅰ (German Culture Ⅰ) 〔 Deutsche Kultur Ⅰ 〕		1 年・前期・2 単位・選択必修 3 専攻共通・担当 上村 昂史	
	〔システム創成工学教育プログラム 学習・教育目標〕 A-1 (70%) , C-2 (30%)	〔JABEE 基準〕 (a) , (f)	
〔講義の目的〕 言語は絶え間なく変化して行くものです。その変化の要因には、異なる言語間でも共通に見られるような普遍的で比較的法的性の高いものから、各国の特定の時代の政治および社会情勢を色濃く反映したものまで多岐にわたります。それら両者の一見矛盾するような変化の様相は、ある言語が辿った、その歴史を見なければ正しく理解することが出来ないでしょう。 本講義の目的は、まずドイツ語が他のゲルマン語派の諸言語から分岐し、現代にまで至る歴史を辿り、言語変化について考えを深めることです。次に、ドイツ語の歴史から個別の変遷を学びます。そして、現代ドイツ語の諸相に目を向け、国境を越えた経済活動が顕著な現代の世の中で、ドイツ語が標準語とは別のどのような変異体を有しているのかについて概観します。			
〔講義の概要〕 基本的に毎回テーマに即したハンドアウトを配布し、それらを中心に講義形式で授業を進めますが、補助教材として、適宜、画像資料も紹介します。また興味を持ったテーマを各自で選択し、レポートを提出してもらいます。			
〔履修上の留意点〕 講義への積極的に取り組む姿勢を重視して、評価します。基本的に、ドイツ語の文献に関しては、日本語訳を参照します。ドイツ語の知識については問いません。参考程度に、英語とドイツ語の関連についても触れる予定です。			
〔到達目標〕 ・ドイツ語史を通観しドイツ語が辿って来た変遷を学ぶ。 ・ことばの変化には、どのような要因があるのか、そのプロセスについて考えを深める。			
〔自己学習〕 目標の達成には、参考書の欄に掲載した文献を起点とし、関心のあるテーマを見つけ、掘りさげてください。レポート作成の際は十分に下準備を行っておいてください。質問などあれば、いつでも受け付けます。			
〔評価方法〕 期末レポート (50%) , 授業での取り組み・積極性〔発言の回数など〕 (50%)			
〔教科書〕 教科書は使用しません。講義中に使用する文献や資料はこちらが準備、配布します。			
〔補助教材・参考書〕 シュミット, ヴィルヘルム (西本美彦他訳)『総論 ドイツ語の歴史』朝日出版社 2004. 清水 誠 『ゲルマン語学入門』三省堂 2012.			
〔関連科目〕			

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週	ガイダンス ドイツ史概観	講義の概要について述べる。その際高等学校の世界史を基にドイツ史を通観する。	
第2週	ドイツ語前史①	ドイツ語がインド・ヨーロッパ語族の他の言語と共通の源を持つことを示し、その祖語からゲルマン語派への派生を見る。	
第3週	ドイツ語前史②	ゲルマン語派の諸言語との分岐から古高ドイツ語までの歴史。	
第4週	古高ドイツ語	古高ドイツ語の歴史。キリスト教伝播によるラテン語の影響。	
第5週	中高ドイツ語	中高ドイツ語の歴史。宮廷詩人の文化。	
第6週	初期新高ドイツ語	初期新高ドイツ語の歴史。活版印刷術の普及やルター宗教改革による標準語化への道筋。国語浄化運動。	
第7週	新高ドイツ語	17世紀から現代までのドイツ語の歴史。標準語化への道筋を、国語浄化運動を中心にみる。	
第8週	ことばの変化①	音韻論レベルの変遷。音変化の法則について扱う。	
第9週	ことばの変化②	形態・統語論レベルの変遷。語形変化の弱化と語順の変遷。	
第10週	ことばの変化③	意味レベルの変遷。ドイツ語の内的変遷だけでなく隣接する諸言語の影響（借用語および外来語）も視野に入れる。	
第11週	ことばの変化④	言語外の要因による変遷。ことばと社会の関係性を中心に。	
第12週	現代のドイツ語①	現代ドイツ語の特徴。標準ドイツ語内の多様な文体差について見る。特に「役所ことば」に注目する。	
第13週	現代のドイツ語②	ドイツ語の標準が複数あることに着目（スイスやオーストリアのドイツ語など）。方言と標準語の境界の曖昧性を見る。	
第14週	現代のドイツ語③	移民のドイツ語。ガストアルバイターによるトルコ系移民のドイツ語を中心に、その特徴と社会言語学的考察を中心に行う。	
第15週	総まとめ	半期の講義の総まとめ。	

* 4：完全に理解した， 3：ほぼ理解した， 2：やや理解できた， 1：ほとんど理解できなかった， 0：まったく理解できなかった。
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)